

# 令和6年度 各務原市立鶯沼第三小学校 経営構想

各務原市小・中学校教育指導の基本理念

誇り・やさしさ・活力のある児童生徒 ～一人一人が学ぶ喜びを実感～

## <学校の教育目標> 美しい心で、力いっぱいやりぬく子

- 自ら考え、表現する子
- 自分や仲間を大切にする子
- 心も体も丈夫で、たくましい子

### 【今日的課題】

- AI化や価値観の多様性中で人と関わり合いながらたくましく生きる力の育成
- 働き方改革と不易流行の教育の両立



### 【めざす学校像】

- 安全で親子共に安心できる学校
- 家庭・地域と共に歩む学校

### 【学校課題】

- 児童の多様性を受容しよりよい人間関係を構築する意識の更なる啓発
- 生きる力と各教育活動の関連の明確化

## <めざす児童像> 自律する児童

→自ら「主体的・協働的」に学習し、生活する児童の育成

- 自ら考え、自分の夢や目標、日々の学習にひたむきに頑張ろうとする
- 自ら仲間と共に生活できる（仲間の気持ちを思いやる）

### 【指導の重点】

**「多様性を受け入れ、仲間を認め合える一人一人に」**

#### ■ボランティア活動の励行

- ・自分以外の人、価値観や生育歴が違う人との相違を認識し始める小学校教育において、「人のためになる活動をする」「仲間のために働く」経験は、活動を通して心の育成に大きな影響を与える。
- ・学年の発達相応に応じたボランティア内容で、日々継続した活動を行うためにも、ボランティア手帳を活用し活動の事実の可視化を通して、意欲付けや内容及び継続性の価値付けを行う。

#### ■一対多数の関わり方の根絶

- ・例えそれが、相手を注意する行為であったにせよ、一対多数の構図にならないよう、「一対多数での関りはしない」ことを各学級で徹底する。
- ・学習においても同様に、発言が一対多数になった場合においても多数決の理論ではなく、マイナーな意見も必ず価値付け、「多勢の意見が正解、正義」の根絶につなげる。
- ・職員一人一人が「ダイバーシティ」の意味合いを確実に理解するとともに、児童に「社会性」や「協調性」を身に付けさせられる指導力を主体的に研究、修養する。

## 日々の「さくららスタンダード」の実践

### ■担任による「心の居場所」がある学級づくり（日常の危機管理・家庭との連携の強化）

### ■教科担任による多面的な学級のとらえ

- ・「子供たちは、全校で育てる」という共通意識をもち、担任一人で抱え込まない。学年を基本集団として、一人の児童を複数の目で見守る。

### ■全職員によるUD並びに個に応じた特別な支援の研修、実践

- ・特別支援コーディネーターや通級担当者を中心として、ユニバーサルな支援に関わる研修や、単純な一斉指導に終わらないための個別追究の時間を随時位置付ける研修を行う。

### ■さくららスタンダード研修の実施

- ・毎週金曜日に30代までの教員を対象とした研修を実施し、日々のOJTを補完するとともに、全校をあげて児童一人一人にとってより最適化された指導を実践する。

